

令和3年度病害虫発生予察注意報第1号

令和3年9月24日
鳥取県病害虫防除所

注意報の概要

9月下旬現在、フェロモントラップにおけるヨトウ類の誘殺数が多く、また、ネギ、ブロッコリー、キャベツ等のほ場では、食害及び卵塊が平年より多く確認されています。今後も発生に好適な気象条件が続くと予想されますので、防除を徹底して下さい。

病害虫名：ヨトウ類（シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ）

- 1 対象作物 野菜（ネギ、ブロッコリー、キャベツ等）
- 2 発生地域 県中西部
- 3 発生時期 平年並
- 4 発生量 多い

5 注意報発表の根拠

- (1) 9月21日の病害虫巡回調査の結果、ネギ、キャベツ、ブロッコリーでヨトウ類の発生が多い。また、これらの卵塊が確認されるほ場数も多く、今後、被害の増加が予想される（表1）。

表1 ヨトウ類の発生状況（9月下旬）

| 作目 | 調査ほ場数 | 発生ほ場率 | 平均発生株率 | 卵塊発生ほ場率 |
|--------|-------|-------|--------|---------|
| ネギ | 10 | 90.0% | 32.4% | 40.0% |
| キャベツ | 5 | 80.0% | 11.4% | 0.0% |
| ブロッコリー | 7 | 85.7% | 13.1% | 42.8% |

- (2) これまでのヨトウ類のフェロモントラップの誘殺数は平年並～多く、今後、次世代の誘殺数が増加すると予想される（図1、図2）。

- (3) 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少ない～平年並と予想されており、今後もヨトウ類の活動に好適な条件になると予想される。

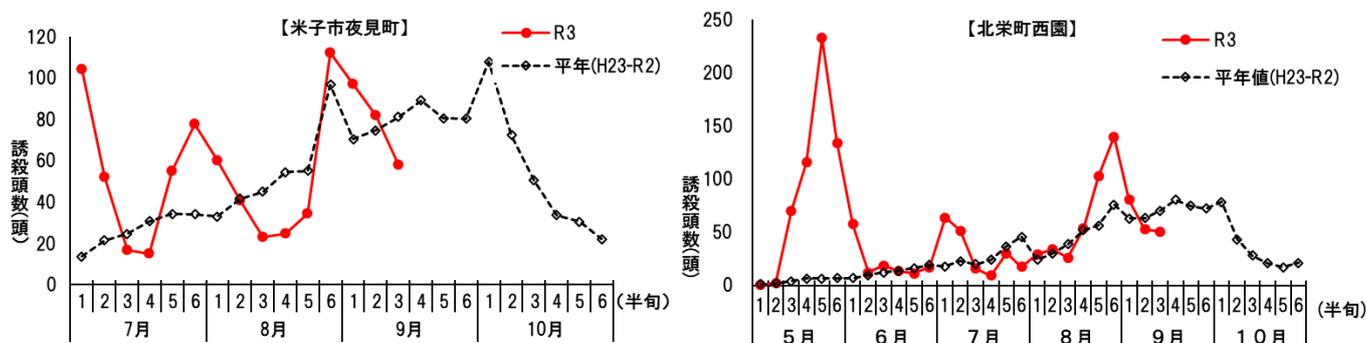


図1 フェロントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺数（品目：シロネギ）

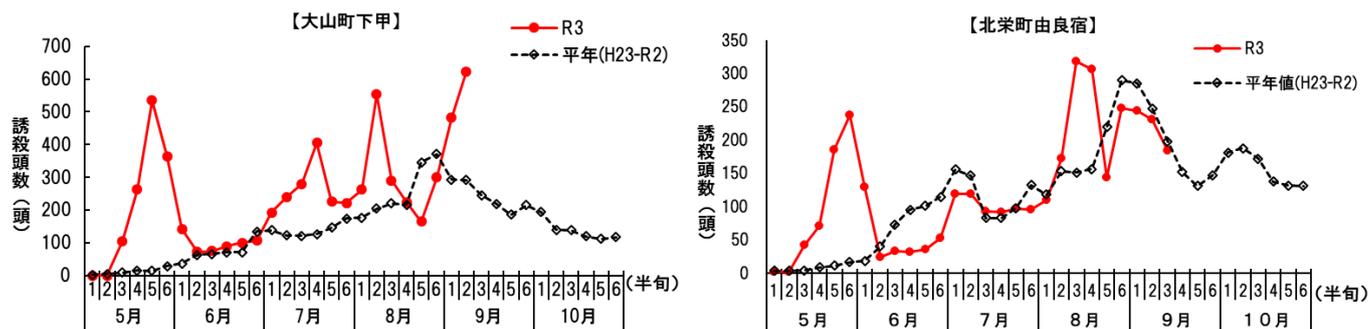


図2 フェロントラップによるハスモンヨトウの誘殺数 (品目：ブロッコリー)

6 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤の感受性が高い若齢幼虫期 (体長 1 cm 以下) に防除を行う。食害痕が見られ始める頃が防除適期である。
- (2) 食害痕は不整形の白斑となり、更にかすり状に透けて見える。はじめ卵塊から孵化した幼虫は集団で産卵場所やその周辺にとどまり、葉の表皮を残して葉肉部を食害する。ほ場内を観察し、食害痕の目立つ株に注意する。
- (3) 食害痕および若齢幼虫の発生が見られた場合には、表を参考に速やかに防除する。
- (4) 農薬の使用にあたっては、使用基準を遵守する。また、最新の農薬の登録内容は農林水産省の農薬登録情報提供システムで確認する。

<https://pesticide.maff.go.jp/>



図3 シロイチモジヨトウの幼虫と卵塊



図4 ハスモンヨトウの幼虫と卵塊

表2 シロイチモジヨトウの主な防除薬剤と使用基準

| 作物名 | 農薬の名称 | 希釈倍数 | 使用時期 | 本剤の使用回数 | IRACコード* | 薬剤の系統 |
|-----|-------------|---------------|------------------|---------|----------|--------------|
| ネギ | スピノエース顆粒水和剤 | 5,000倍 | 収穫3日前まで | 3回 | 5 | スピノシン |
| | ディアナSC | 2,500～5,000倍 | 収穫前日 | 2回 | | |
| | アフーム乳剤 | 1,000～2,000倍 | 収穫7日前まで | 3回 | 6 | マクロライド |
| | フローバックDF | 1,000倍 | 発生初期 但し収穫前日まで | - | 11A | BT |
| | マッチ乳剤 | 2,000倍 | 収穫7日前まで | 3回 | 15 | IGR脱皮阻害 |
| | ベネビアOD | 2,000倍 | 収穫前日まで | 3回 | 28 | ジアミド |
| | プレバソンフロアブル5 | 2,000倍 | 収穫3日前まで | 3回 | | |
| | フェニックス顆粒水和剤 | 2,000～4,000倍 | 収穫7日前まで | 3回 | | |
| | グレーシア乳剤 | 2,000倍～3,000倍 | 収穫7日前まで | 2回 | 30 | イソキサゾリン |
| | プレオフロアブル | 1,000倍 | 収穫3日前まで | 4回 | UN** | プロベニルオキシフェニル |

*殺虫剤コード。殺虫剤の有効成分を作用点作用機構から分類した番号や記号のことで、本コードが異なる薬剤を使用することにより、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができる。 **作用機構が不明あるいは不明確な薬剤

表3 ハスモンヨトウの主な防除薬剤と使用基準

| 作物名 | 農薬の名称 | 希釈倍数 | 収穫前日数 | 本剤の使用回数 | IRACコード* | 薬剤の系統 |
|--------|-------------|--------------|------------------|---------|----------|--------------|
| ブロッコリー | ディアナSC | 2,500～5,000倍 | 収穫前日まで | 2回 | 5 | スピノシン |
| | フローバックDF | 1,000倍 | 発生初期 但し収穫前日まで | - | 11A | BT |
| | カスケード乳剤 | 4,000倍 | 収穫7日前まで | 2回 | 15 | IGR脱皮阻害 |
| | ファルコンフロアブル | 4,000倍 | 収穫3日前まで | 2回 | 18 | IGR脱皮促進 |
| | アクセルフロアブル | 1,000～2,000倍 | 収穫前日まで | 2回 | 22B | その他 |
| | プレバソンフロアブル5 | 2,000倍 | 収穫前日まで | 3回 | 28, 4A | ジアミド |
| | フェニックス顆粒水和剤 | 2,000～4,000倍 | 収穫前日まで | 2回 | 28 | ジアミド |
| | グレーシア乳剤 | 2,000～3,000倍 | 収穫7日前まで | 2回 | 30 | イソキサゾリン |
| | プレオフロアブル | 1,000倍 | 収穫7日前まで | 2回 | UN** | プロベニルオキシフェニル |
| キャベツ | ディアナSC | 2,500～5,000倍 | 収穫前日まで | 2回 | 5 | スピノシン |
| | アニキ乳剤 | 1,000～2,000倍 | 収穫3日前まで | 3回 | 6 | マクロライド |
| | アタブロン乳剤 | 2,000倍 | 収穫7日前まで | 4回 | 15 | IGR脱皮阻害 |
| | マトリックフロアブル | 2,000倍 | 収穫7日前まで | 4回 | 18 | IGR脱皮促進 |
| | トルネードエースDF | 2,000倍 | 収穫7日前まで | 2回 | 22A | オキサジアジン |
| | アクセルフロアブル | 1,000～2,000倍 | 収穫前日まで | 3回 | 22B | その他 |
| | フェニックス顆粒水和剤 | 2,000～4,000倍 | 収穫前日まで | 3回 | 28 | ジアミド |
| | グレーシア乳剤 | 2,000～3,000倍 | 収穫7日前まで | 2回 | 30 | イソキサゾリン |
| | プレオフロアブル | 1,000倍 | 収穫7日前まで | 2回 | UN** | プロベニルオキシフェニル |

*殺虫剤コード。殺虫剤の有効成分を作用点作用機構から分類した番号や記号のことで、本コードが異なる薬剤を使用することにより、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができる。 **作用機構が不明あるいは不明確な薬剤